

## マネーマネジメント

BTD

投資やトレーディングにおいて利益を上げるために最も大切なことは、実は、相場の将来の変動を的確に予測することではなく、マネーマネジメントなのですが、これについて詳しく言及している書籍は日本ではあまり見当たりません。そのためか、マネーマネジメントについて知っている個人の投資家やトレーダーは日本では非常に少ないと思います。もっとも、個人のレベルでそれについて十分な知識と経験があれば、その人は既にプロの技量をもっているといっていいいでしょう。それほどマネーマネジメントは重要であり、これこそが確実に投資家やトレーダーのポケットにお金を残してくれる「魔法の杖」と言えます。

マネーマネジメントとは何か。これについてこれから述べるわけですが、予めことわっておきますが、投資やトレードにおいて利益をもたらしてくれる「魔法の杖」を限られた紙面で全てを語るが無理です。このテーマだけで1冊の本ができるほどの内容をわずかな紙面で語るわけですから、ここで述べることはごく一部のエッセンスだけであることをご了承ください。まずは、真剣な投資家やトレーダーである読者には「オプション売買入門」(パンローリング社刊)の第8章「マネー・マネジメント」を読んでいただきたく思います。更に、余裕のある読者には「マーケットの魔術師」及び「新マーケットの魔術師」(共にパンローリング刊)に登場する各トレーダーのインタビューに目を通すことをお勧めします。成功しているトレーダーが皆一様にマネーマネジメントの大切さを強調しているのがわかるでしょう。

この記事の筆者である私は、読者がレバレッジ性のある金融商品(株価指数、債券、通貨など)または非金融商品(貴金属、穀物、原油など)の先物またはオプションあるいは現物株式の先物(欧米では個別株式の先物が取引されている)やオプション、株式の信用取引を主として取引している人を対象にしています。なぜなら、マネーマネジメントは株式や債券などの現物投資(現物を購入して長期間保有する手法)よりもレバレッジ性のある対象物の取引においてより重要だからです。例えば、今、東京工業品取引所(TOCOM)上場の「金」(東京金)の先物2004年8月限を10枚1400円で買い建てたとします。証拠金は1枚6万円として10枚で60万円の証拠金を預けているとします。この金の先物価格が1460円に上昇したと仮定し、その価格で買い建てた10枚を全て売却(手仕舞い)したとします。この時の利益は、手数料と税を差し引く前で、 $(1460 - 1400) \times 1000 \times 10 = 60$ 万円の利益です。投下資本に対して100%の利益率です。反対に、先物価格が1340円に下落したとします。1340円で売却(手仕舞い)した場合、手数料と税を差し引く前で、 $(1340 - 1400) \times 1000 \times 10 = -60$ 万円(損失)となり、投下資本全てを失うことになります。金の価格はわずか4%を超える程度しか変動していないにもかかわらず、投資資金が2倍になったり、あるいは逆に、投資資金を全て失うようなことが発生する原因はこの「レバレッジ性」にあります。この例では東京金を10枚買い建てていますが、これは現物代金に換算して14,000,000円の投資に相当します。つまり、将来のある期日に14,000,000円分の金を購入することを約束して、その手付金として60万円を預けているに過ぎないのです。これが始めから現物投資として14,000,000円を投下していれば話しは異なります。先物においては資金を増やす速度も速い代わりに、失う速度も速いのはこの「レバレッジ性」にあるのです。しかも、先物には期限があります。現物投資においては期限がありません。極端なケースですが、当初の相場の見通しが誤って、1単位あたりの金の価格1400円が1300円に下落しても、10年後に1400円を超えれば、現物を保有し続けていけば利益を得る機会が巡ってきます。先物ではこうはいきません。前述の通り、まず、先物には期限があります。期限の問題を除外しても、ちょっとした変動で追

証（追加証拠金）を請求される可能性がありますし、最終的に相場予測が正しかったとしても、ちょっとした相場の上下のブレによって、ポジションを継続して保有することができず、資金を失ってしまう可能性が、「レバレッジ」のある取引（投資）対象物では常に存在するのです。これは先物の限らず、オプションや株式の信用取引においても同様のことが言えます。

相場においては自分の相場観が正しいことなど役に立たない例を「マーケットの魔術師」から引用しましょう。「私がカラ売りした銘柄はメモレックス社だった。48ドルでメモレックスを売った。当時私は耐える力がなかった。心理的にも、情緒的にも、そして最も重要な資金的にも。最終的に私は72ドルでカラ買いを買い戻した。メモレックスは最終的に96ドルまで上がり、そして2ドルまで一直線にぶっ下がった。私が48ドルでカラ売りしたのは、全く完璧に、申し分なく正しかったのだ。しかし、私は破産した。私が正しいかどうかなど相場には関係ないのだ。」（「マーケットの魔術師」288ページ）

要するに、相場で大切なことは第一義的に、マネーマネジメントだということです。これにつういての知識なしに、少なくとも、レバレッジのある対象物に手を出すべきではありません。マネーマネジメントとは具体的にどうするのか。これについて語るには紙面が十分ではありませんが、ごく簡単にいえば、「買い」にせよ、「売り」にせよ、ポジションを取る前に予め、どこで損切りするか、どこで利食うか、ポジション・サイズはどうするのか（先物やオプションなら枚数、株式なら株数）を計画しておくことです。その計画に定型のものはありません。自分が決めることです。個人個人の資金量とも関係があります。マネーマネジメントは「資金管理」とよく訳されます。しかし、これは単に言葉の問題であって意味はよく理解されていません。マネーマネジメントは、「資金運用」そのものなのです。語学の学習において、単語を覚えたり、基本の文章を暗記したり、あるいは文章の翻訳の仕方や文法について学ぶのは「知識」の部分です。これだけでは語学は上達しません。外国語で文章を書いたり、話したりする能力は、「運用能力」、すなわち、語彙や文法の知識を活用する能力がなければなりません。これは実際に、外国語を使うという経験を通してしか取得することができないのです。同様のことが、相場についても言えます。相場の知識がどんなにあっても、トレードによって利益を上げるための技術は実際に経験することでしか修得することができないのです。相場に関する知識を活用する運用能力を身につけること、これがマネーマネジメントであり、そのエッセンスは資金を動かすための“計画性”にあるのです。